

---

# **死者からの贈りもの**

楠基

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死者からの贈りもの

### 【著者名】

ZZマーク

N3052F

### 【作者名】 楠基

### 【あらすじ】

ある日、まだ大学生だった瞳美さんは、同じ大学で同じクラスの2トントラック運転手をしていた広輔さんに、そのトラックではねられてしまいます。それから、広輔さんは、トラック運転手をやめ、宅配便の仕事に着くのですが、ある日、広輔さんのもとに、送り主の名前も住所も中身もわからない箱が送られてきます。

今から14年前、ある一人の女性が、突然の事故によつて、亡くなりました。

その亡くなつた『瞳美さん』と言つ女性は、当時はまだ大学生で、名門大学に通つていました。

瞳美さんは、2トントラックにはねられ、亡くなつたのですが、不幸にも、そのトラックを運転していたのが、彼女と同じクラスだった『広輔さん』と言つ男性でした。

広輔さんは、その後、退学処分となり、大学をやめると同時に、刑務所に入りました。刑務所から出た後、『宅配便』の仕事に着き、また日常の生活に戻ることが出来ました。

そんなある日、広輔さんは、会社の上司に呼び出されました。上司のところに行くと、上司は、一つの箱を手に持つていました。

『お呼びでしょうか。』

『ああ…、これ…、お前宛てに来てるぞ…』

『ああ、そうですか。ありがとうござります。』

しかし、上司は、黙つたまま箱を見つめていました。

『…どうなさつたんですか…?』

『いや…、これ…、送り主の名前や住所、それから、中身が書いていないんだよ…』

『えつ…?』

『…なんだか、不気味だな…。何か、危険な物が入っていたらいないから、警察に出しておこうか?』

『いえ、一応、僕宛てに来た物ですから、持つて帰つて、中身を見てみます。』

『そ…、そうか…?』

夜。帰宅した広輔さんは、早速、その箱を開けてみました。すると、中に入っていたのは、なぜか、『ズツキー』でした。

(ん…?ズツキー…?なんで、ズツキーなんだよ…?)

広輔さんは、取りあえず置いておいたと思い、キッチンの隅に箱ごと置いておきました。

それからと言うものの、毎日毎日、送り主の名前と住所、箱の中身が書かれていない箱が広輔さんのものとに届くようになりました。

二日目は『ツクシ』、三日目は『トマト』、四日目は『スイカ』、五日目は『キュウリ』…と。

そして、今日は六日目です。それそれに共通することは、全てが『食べ物』だと言つことだけです。それぞれがどんな意味を持つているのか、広輔さんには、理解出来ませんでした。

警察に言つても、『中身が危険な物ではない』と言つ理由で、相手にしてもらえませんでした。

それでもまだ、あの送り主のわからない箱は送られ続けていました。

六日目は『ダイコン』、七日目は、また『ツクシ』、八日目は『タ

ケノコ』、九日㈰は『ヒジキ』、十日㈪は、また『トマト』、そして、十一日㈫に『ミカン』が来た時、広輔さんは、急に怖くなつて、小学校からの友人の『豊さん』に、相談をしました。すると、豊さんは、

『今までに送られて来た物を、紙に書いてみなさい。』

と、言いました。広輔さんは、言われた通り、今までに送られて来た物を紙に書きました。豊さんは、それを見て、

『今までに送られて来た物の頭文字を取つて読んでみなさい。』

と書きました。広輔さんは、意味がわからないます、読みでみまし  
た。

好きだった瞳美、！？』

『そう。その瞳美さんって言う女性は、ずっと、広輔のことを想つていたんだよ。そして、その想いを伝える前に亡くなってしまったから、こうして、メッセージとして、広輔に送っていたんだよ。』

『そりだつたのか…』

広輔さんは、ぼう然としてしまいました。

それから、その送られていた食べ物は、全て、瞳美さんの好きだった食べ物だそうです。

瞳美さんは好きだった人はよーやく自分の想いを伝えられて  
もつ、この世に未練はなくなつたことでしょう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3052f/>

---

死者からの贈りもの

2010年11月27日18時52分発行